

## 私達の劇、沖縄戦

北杜市立甲陵中学校 2年 相山 心音

皆さんは、戦争がどれだけ恐ろしく、悲惨なものか知っているだろうか。何の罪もない人々を無惨に殺し、多くの命を奪って一体何がしたいのか。また、戦争を世界中で起こさないために、私達にできることは何なのだろうか。

私の中学校は、毎年秋になると文化発表会を行う。クラスごとに一つずつテーマを決め、劇を行っている。私達のクラスは、第二次世界大戦をテーマにした沖縄戦の劇を行った。一般市民がいるガマ（防空壕）の中と、「ひめゆり学徒隊」がいるガマの中を舞台として演じた。

文化発表会の日に備え、約二か月前から準備が始まった。一クラス四十人という少人数であるため、今回は全員が役者となった。小道具・大道具・音響・照明・スポットライト・スライド作り、監督は兼任となる。私は皆をまとめる監督になった。沖縄戦については、小学校の時に本を読んで知っていたため、劇にしたらどのようなのか関心があった。しかし、配られた台本の内容があまりにも衝撃的で、自分の想像とはかけ離れていた。何度も目を閉じたくなるくらい悲惨なものだった。友達が目の前で銃声と共に一瞬にして消える。水・食料を探しに出かけて戻らない同級生。また、手榴弾によって多くのひめゆり学徒隊の人々が亡くなった。どれも私には想像を絶する内容だった。どうやって当時の人々の感情を表現すればよいのかとても悩んだ。まず、クラス全員で沖縄戦について調べるところから始めた。戦時中の

写真や映像を見て当時何が起こっていたのかを学び、そこで分かった悲惨さを一人一人が感情をこめて、セリフと言えるよう何度も練習をした。ガマの様子をより鮮明に現実に近い演出をするために、服装はモンペと白いシャツを着用することにした。本番当日、猛練習したセリフを観客に向けて発表することができた。

最初、本で読んだ沖縄戦の知識しかなかったが、劇を通して多くの資料を集め学び、当時の人々の気持ちを想像し垣間みることができた。恐怖・絶望・憎しみを生み出す戦争をなぜ行うのだろうか。現在も戦争はなくなっていない。戦争をして得るものは、命よりも尊いものなのだろうか。戦争は間違っている。このことを後世に伝えるために私達にできることは何なのか。それは皆に戦争の恐ろしさを知ってもらえるよう、社会に発信することだと思う。今、私ができることは、作文や劇、弁論大会などで戦争をテーマに考えを伝えていくことだと思っている。無駄な命など一つもない。戦争でなくなる命ほど悲惨なものはない。戦争をして得るものは、人々の悲痛な想いだけだと思う。多くの人々に戦争の恐ろしさについて知ってもらい、戦争のない世の中にした。